

2024年度 メリー★ポピinz 南蒲田ルーム 事業報告書 (保育所における自己評価)

I. 2024年度の概要 ~年度の基本方針を受けて~

今年度は、「大人も子どもも主体的に行動し、地域を感じられる園」を目指していった。

主体的な保育として、大人はその人なりに考えて意見が出せる環境を設けていき、保育の質へと繋げていった。子どもは、盛りつけられた皿自分で運んで自分の座る場所まで持っていく、ジャグに入っているお茶自分で入れて、自分のことは自分でできるような環境を作っていった。最初はお茶を入れる量が分からなく、運ぶ際にお茶をこぼしてしまうなどの失敗の体験をしていった。その経験を繰り返すことにより、保育者の声掛けなしで、こぼすことなく運ぶようになった。

また、地域交流として児童館へ行き、児童館のスタッフや地域の方と交流を行った。それにより、どろんこ祭りの際、地域の方の参加も例年より多くの方が参加して下さった。

これらにより、地域と共に様々な経験を共有し、「主体的に行動する」ことができ、「地域を感じられる園」となる一歩となつたのではないかと考える。

〈1〉保育内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	日課である畠活動を通じて、食材や食の循環・環境を知る。
	実践結果	畠で獲れたものが少なかったが、保育者と一緒に調理したり、食したりすることができた。また、米を研いだ時に出た米の研ぎ汁を使って畠の水やりを行っていった。
	次年度方向性	生き物の世話、畠活動など引き続き行い、食の循環が知れるよう、コンポスト活動で発泡スチロールなどを使用して、食の循環を知れるよう取り組んでいく
2	計画・ねらい	園内研修・園長大学®保育士大学・外部研修を月1回以上受講して、主体的に学び続ける。
	実践結果	園会議内で研修を行い、学びを共有し合っていった。その後、日頃の保育で活かしていき、その結果どうなったかを園会議で話し合っていった。
	次年度方向性	引き続き、園会議で研修を行い、スタッフが学びたい研修を受講できるようにしていく。
3	計画・ねらい	子どもが主体的に行える物的環境を設定する。
	実践結果	ポートフォリオでの写真記録を行い、それを掲示して保育内容を保護者に伝えていった。また、子どものエピソードを園会議等で話し合い、保育計画を立案していった。
	次年度方向性	引き続き、ポートフォリオでの記録を行い、保育内容を保護者や地域の方に伝えていく。

〈2〉保育所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	大人も子どもも笑顔になるような綺麗で気持ちの良い施設を作る。
---	--------	--------------------------------

	実践結果	日々清掃を意識し、玄関周り、園周りなど清潔感を保っていった。 棚の整理整頓などを定期的に行い、保護者様から見えない所も行っていった。
	次年度方向性	玄関周りの掃き掃除だけでなく、園周りの掃き掃除などを行い、より綺麗な施設を作っていく。 棚以外の場所、調理室など保護者様から見えない所を継続して行っていく。
2	計画・ねらい	保護者が利用して良かったと思える園を作る。
	実践結果	子育てに関する質問やお子様の成長に関する疑問、とくにトイレトレーニングや食事等があった際には、丁寧に相談に応えていった。
	次年度方向性	引き続き、スタッフも知識を増やしていく、子育てに関する質問やお子様の成長に関する疑問等に丁寧に応えていく。
3	計画・ねらい	日々の保育内容、子どもの成長を保護者に共有する。
	実践結果	タイムラインを投稿したり、ポートフォリオなどを玄関掲示したりするなど、その日の様子を共有していった。
	次年度方向性	引き続き、タイムラインの更新を継続して行い、ポートフォリオだけでなく、ドキュメントを玄関掲示できるようにしていく。

〈3〉 地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	近隣の公園や保育園、商店街とコミュニケーションを取り、地域との交流を深める。
	実践結果	挨拶だけで終わるのではなく、会話でのコミュニケーションも取っていった。八百屋やスーパーなどにおやつの材料を定期的に買いに行き、交流を行っていった。
	次年度方向性	引き続き、地域との交流を行っていく。 製作したものを見せに行ったり、八百屋などで買ったもので作った料理を写真で見せたりしていき、交流を行っていく。
2	計画・ねらい	青空保育やちきんえっぐなどの情報発信し、地域に開かれた保育園を目指す。
	実践結果	門扉におたよりや活動内容を掲示していった。 ちきんえっぐの活動を保護者にもお伝えし、兄弟や未就園児への参加に繋がるようにしていった。
	次年度方向性	引き続き、おたよりを配布していき、門扉に掲示をしていく。 また、おたよりを交流のある八百屋や児童館などに掲示してもらい、存在を知れるようにしていく。
3	計画・ねらい	保護者や地域の方などに必要とされ、選ばれる園となる。
	実践結果	保育園を利用してない方のためにも、園解放を行い、自園を知ってもらうようにしていった。 園内研修にて、ロールプレイを行い、接遇研修を行った。
	次年度方向性	引き続き、保育園を利用してない方のためにも、園解放を行っていく。 園内研修にて接遇研修を行い、スタッフ皆がより丁寧に対応していく。

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	スタッフ自身の保育の質向上のため、目標を明確にし、達成を目指す。
	実践結果	全スタッフが目標設定を行い、年2回以上施設長との面談を行い、振り返りや達成度、課題設定を行った。
	次年度方向性	引き続き、全スタッフが目標設定を行う。 施設長との面談を行い、振り返りや達成度、課題設定を行い、保育の質向上を目指していく。
2	計画・ねらい	保育園の質向上のため、研修をスタッフが主体的に受講し、学んだことを他スタッフに共有し、理解を深める。
	実践結果	園会議内で、園長大学®保育士大学や、外部研修などで得た学びを共有する機会を設けていき、研修受講したスタッフだけでなく、園全体の質向上に努めていった。また、そこから保育に取り込んでいき実践していった。
	次年度方向性	引き続き、園長大学®保育士大学や、外部研修などで学び続けていき、園会議内で、研修受講したスタッフだけでなく、園全体に共有し、質向上に努めていく。
3	計画・ねらい	スタッフ間のコミュニケーションを大切にし、計画、行事等、スタッフ皆で共有し、考えていく。
	実践結果	日々の子どもの姿について園会議内で共有をしながら、スタッフ同士のコミュニケーションを高めていった。 また、週1回、週会議の時間を設け、子どもの姿を振り返りながら、保育計画を考えていき、朝礼時に共有を行っていった。
	次年度方向性	引き続き、日々のコミュニケーションを大切にしていく。園会議内や週会議で子どもの姿を共有しながら、計画を立案していく。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	子どもが主体的に行える環境を作る。
	実践結果	子どもたちが、自分でできることは自分でできるように、玩具や道具を自分で取り出されないようにしたり、ご飯が盛りつけられた皿を運んだり、ジャグを用意して、お茶を自分で用意できるようにしていった。
	次年度方向性	引き続き、自分でできることは自分でできるよう、子どもたちがやりやすい環境を作っていく。
2	計画・ねらい	子どもも大人も整理整頓の習慣をつける。
	実践結果	棚扉に品目を付けたり、中の物は使用頻度が高いもの、低いものなど分けて整頓していった。
	次年度方向性	玩具棚に玩具の写真を貼付し、子どもも大人も片づけやすい環境を作っていく。引き続き、棚内の物を整理整頓していき、綺麗な状態を保っていく。

〈6〉地域交流

1	計画・ねらい	地域を身近に感じられるようにする。
---	--------	-------------------

	実践結果	八百屋などの店におやつの食材を子どもたちと一緒に買いに行き、簡単な工程を子どもが一緒に調理道具を使って作れるようにしていった。また、それをポートフォリオやタイムラインで記録として残していく。
	次年度方向性	記録したものを後日、八百屋などに見せていく、交流を深めていく、また、継続して記録を行っていく。
2	計画・ねらい	地域の方との交流を行い、選ばれ続ける園を目指す。
	実践結果	月1~2回、児童館へ遊びに行き、地域との関わりを積極的に行っていった。
	次年度方向性	継続して児童館へ遊びに行き、地域との関わりを行っていき、選ばれ続けるようにしていく。

2. 施設運営

〈1〉児童利用状況

月極利用児童受託状況（延べ人数）

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
年度前半： 4~9月	0人	16人	18人	—	—	—	34人
年度後半： 10~3月	18人	18人	18人	—	—	—	54人

延長保育利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総 人数	1人	1人	1人	1人	1人	1人	12人						
うち0 歳児	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人						

(解説) 18:00以降の延長保育利用人数を反映。

一時保育利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総 人数	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人						
うち0 歳児	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人						

(解説) 定員が満員である状況でも積極的な受け入れを行った。

〈2〉開所時間

7時00分～20時00分

〈3〉スタッフ構成（3月1日時点）

常勤 スタッフ	保育士	2人
パート スタッフ	保育士	3人

3. 運営報告

〈1〉施設内会議

会議名	実施回数	会議内容
園会議	月1回 ※2,3月は策定会議にて実施	・コンピテンシー ・保育の質向上に関わる勉強会
給食運営会議	月1回	児童の食べ進み、状況などの共有
事故防止委員会	月1回	ヒヤリハット・インシデント・事故記録簿の分析
ケース会議	月1回	対象児なしの為、子どもの姿の特記事項共有の場として活用
週会議	毎週1回	週の保育・子どもの姿の振り返りと次週の計画

〈2〉出席した施設外会議（Web参加含む）

会議名	実施回数	参加スタッフ
施設長会議	月1回	施設長
施設長勉強会	月1回	施設長
食育会議	年4回（5.8.11.2月）	施設長
保健会議	年4回（5.8.11.2月）	施設長
子育ての質を上げる会議	月1回	保育士

〈3〉 係の設置状況

係名	活動の様子・省察
衛生管理係	チェックリストを用いての衛生点検・保育室の環境整備に努めた。上半期、下半期で掃除チェックリストの見直し・改善を行い、園の清潔維持に努めた。
安全対策係	自園のヒヤリハットやインシデントに関して共有、検証を行い、事故防止につなげた。また、系列園の事故報告の傾向を探り、対策を練ることで自園の事故防止へとつなげた。
防火管理者	毎月の避難訓練を行い、災害時の保育者間の連携を深めた。また、昼礼や園会議にて振り返りを実施し、災害時の対応への理解を深めた。
食品衛生管理係	調理・調乳など調理施設の衛生管理を行い、安全な食事を提供できるように努めた。
畑係	畠仕事（プランター菜園）の年間計画をスタッフに周知し、計画的に活動できるように努めた。また、子どもと共に、栽培物の管理に努めた。
生き物係	生き物の世話（餌やり）や水槽の清掃などを子どもと共にを行い、子どもの興味・関心を引き出した。

〈4〉 行事係の設置状況

係名	活動の様子・省察
各行事係	新型コロナウイルスを考慮したうえで、行事内容の計画やスタッフへの周知を行い、計画的にねらいを持った行事を行うことができた。

4. 保育支援

〈1〉 保育・保育参加・保護者面談および発達相談・園児の保護者への支援および意見要望への対応

保育	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの要求に対して丁寧に関わり、子どもの思いに共感し、応じていき、自我の成長や自己肯定感を育んでいくように努めていった。 ・子どもが主体的に活動できるよう、必要以上に介入せずに見守り、子どもが恐れや不安を感じ求められた際は、しっかりとその気持ちに寄り添い、安心できるように努めていった。
----	--

	<ul style="list-style-type: none"> ・様々なことに触れたり、見たり、挑戦してみたりと、多くの体験、経験ができるような機会を設けていき、見守ったり、サポートしていった。 ・保育者に見守られながら安心して一人遊びを楽しめるようにし、保育者も積極的に体を動かして一緒に遊び、戸外活動を十分に楽しめるように努めていった。
保育参加	4~3月まで 合計0名 (3月1日時点)
保護者面談および発達相談	4~3月まで 合計0名 (3月1日時点)

〈2〉計画した年間行事の振り返り

- ・別紙「2024年度年間スケジュール」に掲載
- ・保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉給食・食育に関する実践結果

1	計画・ねらい	毎日の昼食時間が来るのを楽しみにしながら活動をする。
	実践結果	室内やテラスといった、食べたい場所を自分で選択できるようにし、友だちと一緒に食べる喜びを感じながら、食事を楽しめるようにしていった。食事が盛られた皿は自分で選択できるよう配膳を工夫し、自分でやりたい、食べたいという気持ちを満たすことができるようにしていった。日々の活動で十分な活動を行い、空腹感を感じて食欲へつなげていった。
	次年度方向性	引き続き、室内やテラスといった、食べたい場所を自分で選択できるようにしていく。 盛られた皿を運ぶだけでなく、お茶を自分で用意できるよう、ジャグを用意していく。
2	計画・ねらい	直接体験により、食材・食の循環、環境を知る。
	実践結果	畠仕事で様々な食材に触れ、八百屋などの訪問で様々な食材を知れるようにしていった。 育てた野菜を子どもたちで洗い、その野菜を使ってみそ汁やお粥を作り、子どもたちが食べられるようにしていった。
	次年度方向性	食の循環として、コンポストを実践し、給食での残飯がどのようにして肥料となるのかを試みる。

〈4〉保健に関する実施結果

実施項目	詳細
園児健康診断	6月25日／11月5日に実施
歯科検診	6月11日に自園にて実施
保健だより	毎月25日に児童数にて配布
スタッフ健康診断	年1回実施
スタッフ検便	毎月1回（全スタッフ対象）
その他実施した園児への保健指導、又は、取組等	① 4月、12月に保育室にて手洗い指導を実施 ② 6月、1月に保育室にて歯磨き指導を実施
流行した感染症	① 6月に手足口病、園児1名感染報告有り。6月26日に終息。 ② 12月にインフルエンザA型、園児2名感染報告有り。1月にインフルエンザA型、園児1名感染報告有り。1月9日に終息。
発作・痙攣等の対応	ダイアップ使用なし その他、救急車要請なし
エピペン使用できるスタッフの状況	本日時点で、在籍スタッフ5名のうち、5名が使用可能
AED 使用できるスタッフの状況（AED 設置施設のみ）	AED 設置なし
その他保健に関する取組	新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行った。また消毒・換気を徹底した。 嘔吐処理やおむつ交換のロールプレイを行い、感染症予防へと繋げた。

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	4・7・10・1月の25日に計4回実施済み
	防災自主点検 (備蓄品点検含む)	6・12月の25日に実施済み
	避難消火訓練	毎月1回/15日に計12回実施済み
	不審者侵入訓練	6・12月の25日に実施済み
	情報セキュリティチェック	5月・11月に実施済み
	誤飲・誤嚥防止チェック	4・7・10・1月の25日に計4回実施済み

衛生管理	衛生管理点検表/毎日	毎日実施⇒実施していない日 0日
	衛生管理点検表/毎週	毎週金曜日実施⇒実施していない日 0日
	衛生管理点検表/毎月	毎月25日に計12回実施済み
	個人衛生点検簿/毎日	毎日実施⇒実施していない日 0日
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認/ 保険証期限確認	年2回/4・10月 ⇒4月19日、10月18日に実施済み
	身長体重測定	毎月1回/20日 実施済み
	児童健康診断	内科健診 各年2回/6月25日、11月5日 歯科健診 各年1回/6月11日
運営管理	児童・保護者の人権に関する チェック	年2回/4・10月の園会議時 ⇒4月19日、10月18日に実施済み
	コンピテンシー自己採点	毎月1回/園会議冒頭5分間 実施済み
	利用者アンケート調査	8月25日～9月5日に実施済み

〈6〉 実施した環境整備の状況

1	計画・ねらい	子どもが興味を持ち、自ら遊びや活動を始められるような環境を整える。
	実践結果	園会議等で子どもの姿を共有し、必要な遊びの環境を考え、設定していく。発達の年齢に合わせて、玩具や道具が子どもたちのタイミングで自由に取り出せるような環境にしていった。 子どもたちが自分でできることは自分でできるように、食事時には盛りつけられた皿自分で選べるようにし、おやつ時に大きさなどを変えて、自分で食べたい量を選べるようにしていった。また、お茶も喉が渴いたら自分で飲めるよう、ジャグを設置していった。
	次年度方向性	引き続き、子どもの姿を共有しながら、環境設定を考えていく。 また、自分でできることは自分でできるように、やりやすい環境を設定していく。
2	計画・ねらい	綺麗で気持ちの良い施設を作る。
	実践結果	日々清掃を意識し、玄関先や園周りの清掃を行っていった。 スタッフ使用の棚に入っている物の名前をつけていき、取りやすいようにしていった。
	次年度方向性	引き続き、職員使用の棚を使う頻度が高いもの低いものと分けながら、取りやすいようにしていく。 また、玩具棚には玩具の写真を貼るなど、どこに何が入っているのか、すぐに分かるようにしていく。

〈7〉 手作り遊具・家具安全点検結果

手作り遊具・家具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検実施時期	点検結果
1	なし			

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	実践結果	月1回の避難訓練実施と実施後の振り返りを行うことで、災害時に各スタッフが落ち着いて行動できるように努めた。
2	実践結果	年2回の不審者侵入訓練を実施し、施設の特徴を理解したうえでの最善の対応方法を探った。
3	実践結果	4月・7月・10月・12月の事故防止チェックを基に、子どもが安心・安全に過ごせる環境の見直しと構築を行った。
4	実践結果	5月・7月・9月・11月・1月・3月に設備点検チェックを実施し、安全に努め破損や問題のある箇所が見つかった際は、早急に対応した。
5	実践結果	事故防止委員会にて自園のヒヤリハットやインシデントに関して共有、分析を行い、事故防止につなげた。また、系列園の事故報告の傾向を探り、対策を練ることで自園の事故防止へつなげた。
6	実践結果	5分間ごとに生存確認を行い、仰向け姿勢を徹底していった。また、SIDSについて園内研修を行い、SIDS防止に努めていった。
7	実践結果	東京都環境局による「光化学スモッグ注意報等のメール送信」の登録を行い、発令・解除の緊急時情報を取得し、対策を講じた。
8	実践結果	施設長が定期的に散歩に同行し、公園や散歩ルートの危険個所の確認や子どもの見失いの防止等に努めた。
9	実践結果	緊急時に即時対応できるように、年1回消防設備点検を実施していった。

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉 今年度の振り返り

スタッフの出身校訪問等、受入の可能性を探ったが、新型コロナウイルスの流行もあり、思ったような動きを生み出せなかった。次年度も引き続き可能性を探っていき、まずは繋がりを作っていくことを第一に取り組んでいく。

〈2〉 実習生の受入

受入なし

〈3〉 中高生の受入

受入なし

7. スタッフ研修

〈1〉 園内研修の開催

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
コンピテンシー自己採点	19日 4名	17日 4名	21日 4名	19日 4名	29日 4名	20日 4名	18日 4名	15日 4名	20日 4名	24日 4名	21日 4名	21日 4名
保育の質向上	19日 4名	17日 4名	21日 4名	19日 4名	29日 4名	20日 4名	18日 4名	15日 4名	20日 4名	24日 4名	21日 4名	21日 4名

〈2〉 法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修 (子育ての質を上げる会議)	17日 1名	15日 1名	26日 1名	17日 1名	21日 1名	18日 1名	16日 1名	20日 1名	18日 1名	15日 1名	14日 1名	14日 1名
施設長勉強会	17日 1名	15日 1名	27日 1名	18日 1名	22日 1名	19日 1名	17日 1名	21日 1名	19日 1名	16日 1名	14日 1名	14日 1名
全社員研修	11月に動画視聴にて研修を実施（全スタッフ対象）											
リーダー養成研修	第1回：4月20日～21日にオンラインにて1名（保育士）が出席 第2回：5月17日に動画視聴にて研修を実施（施設長、保育士）が出席 第3回：7月19日に動画視聴にて研修を実施（施設長、保育士）が出席 第4回：9月20日に動画視聴にて研修を実施（施設長、保育士）が出席 第5回：11月15日に動画視聴にて研修を実施（施設長、保育士）が出席 第6回：4月20日～21日にオンラインにて1名（保育士）が出席 第7回：2月8日～9日にオンラインにて1名（保育士）が出席											
デノマークインターンシップ	参加なし											

〈3〉 スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝えた。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をした。

8. 地域交流

〈1〉 今年度方針・テーマの振り返り

新型コロナウイルス感染流行の影響もあり、積極的な地域交流は計れなかつたが、日々の散歩での挨拶や公園での活動、食材の買い物等を通して、地域の方との交流の機会を設けることができた。また、園見学に足を運んでくださつた方々には青空保育や子育てサロンの告知を行い、繋がりの強化を図つた。その成果もあり、幾度か参加いただく機会があり、子どもたちの貴重な交流の時間となつた。

〈2〉 実施した地域交流

活動行事	内容
活動行事	内容
青空保育（保育園主催）	月1回 公園名：本町二丁目公園にて 参加延べ人数：10名
商店街ツアーア	週1回 主な行き先：八百屋、パン屋、肉屋、魚屋、精米店、郵便局等
世代間交流	新型コロナウイルス流行の為、施設等での実施はなかつたが、散歩道中や公園にて、交流を行つた。
異年齢交流	新型コロナウイルス流行の為、施設等での実施はなかつたが、散歩道中や公園にて、交流を行つた。

9. 小学校との子ども間交流・職員間交流

〈1〉 今年度の振り返り

012歳児対象の園である為、就学に向けた交流の実施はないが、異年齢交流を目的とした小学生との交流を計画した。コロナ禍の中で実施はできなかつたが、山王小学校での畠活動を通じて繋がりを作ることができた。

保育所での生活や学びが小学校へと連続性を持つことが重要であるため、小学校の実情を把握するうえでも、次年度も交流を計画していく。

10. 要支援児

今年度、対象園児なし

II. 子育て支援事業

今年度の子育て支援事業・イベント・子育て相談・青空保育を含む延べ来園者数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
0名	0名	0名	0名	0名	2名	2名						

実施項目	詳細
園開放	(月)～(土) 9:30～16:30 にて実施 来園延べ人数：2名
子育て相談	(月)～(土) 13:00～16:30 ⇒ 計0件相談実施済み
ちきんえっ ぐだより	毎月1日発行

12. 園運営の向上

〈1〉 福祉サービス第三者評価の受審

株式会社 学研データサービスに依頼して受審済み

アンケート配布日：7月16日

アンケート回答率（スタッフ）…80%／アンケート回答率（保護者）…100%

経営者ヒアリング・施設長ヒアリング・園審査：10月1日に実施

（省察）特に優れている点として、職員の良好な関係性が築かれていて、積極的な情報交換や提案が行われ、個に応じた保育、職員が主体的に考える保育が実践されている。0～2歳児がワンフロアにて生活する中、どろんこ会グループの特色である異年齢保育が効果的に実践され、互いに関係性を築いている。事業計画には計画の意図と具体的な取り組みが明記され、その振り返りが徹底されていて、次年度の活動の方向性に明確につなげている。

さらなる取り組みが期待される点として、事業継続計画（BCP）においては、園業務の継続、早期復旧という観点での計画をさらに深めていくことを期待。現在の職員構成の中には、施設長を支えていけるリーダー的職員の育成が早期に望まれる。児童減が続く状況下で、特徴ある保育活動を地域にさらに浸透させていき、選ばれる園としての魅力のアピール強化を期待。

〈2〉 園による自己評価の実施

2024年9月20日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施済み。

自己評価開始時刻：17時00分

自己評価終了時刻：18時00分

自己評価実施者：施設長、0歳児担当、1・2歳児担当、フリー保育士

〈3〉 利用者アンケートの実施

施設利用 保護者に対し、アンケートを実施

アンケート配布日：8月16日

アンケート回収率：100%

(省察) 「少人数で先生の人数も多く、目が行き届いており、安心して預けられる」「日々の報告や、家と園での様子のしっかり聞き取り、的確なアドバイスもいただき、ありがたい限り」など、園への信頼と感謝を寄せる声を頂いた。この背景としては、日々、スタッフ間でご家庭や園での様子を共有しており、子どもたちの生活が視覚的に分かるように、ポートフォリオやタイムラインでの写真を日々更新して公開しているからであると考える。引き続き、これらのことを行っていく。

13. 苦情解決・ケガのうち報告すべき事項

ご意見ご提案デスク（HP・メール・電話）、口頭・書面・連絡帳・ご意見ご提案ボックスによって寄せられた全ての意見・要望・苦情について、原則、「苦情対応体制」に従い、法人として解決を図る。以下、報告すべきご意見・ケガに関しては次の通りとなる。

〈1〉 報告すべきご意見

「報告すべきご意見 0件」

〈2〉 報告すべきケガ（事故含む）

「報告すべきケガ（事故含む） 0件」

以上

作成日：2025年3月15日 作成者：メリー★ポピinz 南蒲田ルーム 施設長 森井 俊行